

体育・保健体育研究委員会

1 研究テーマ

「生徒一人ひとりが、友と関わり合いながら運動の技能を高め、運動の楽しさを深めるための授業づくりはどうあったらよいか」

～生徒同士のコミュニケーション活動（学び合い）に視点を当てて～

2 研究内容（研究課題）

○期 日 平成 20 年 11 月 19 日（水）

○学 校 名 豊丘小学校

○単 元 名 「ねらえ高とく点！なかよしキックベース」

○授業学級 3 年生（男子 11 名 女子 8 名 計 19 名）

○授 業 者 栗林 孝成 教諭

○研究の重点

体育・保健体育研究委員会では、以下の 3 点を研究課題として、授業づくりを行ってきた。

①個人ではなく、全体共通の"めあて"の持たせ方

②生徒・児童の実態に合わせた用具や場の工夫、教材化。

③課題追究場面での教師の出（アドバイス、コミュニケーションのとらせ方、など）

3 研究の成果

(1) 指導の実際（本時を中心に）

まず、体育・保健体育研究委員会としては、確かな学力を昨年に引き続き、以下のようにとらえた。

- | |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>① 仲間と関わり合いながら、アドバイスし合ったり、励まし合ったりする活動を通して、運動する喜びや楽しさを味わい、自信をつけて挑戦したり、自ら進んで練習したりすることができる。
(学ぶ意欲)</p> <p>② 仲間や自己の運動への取り組みを振り返り、仲間の良さや自己の課題に気づくことができる。
(思考力・判断力)</p> <p>③ その運動の練習方法を工夫したり、動きのイメージをつくったりしながら、運動の動きを高めていくことができる。(問題解決力)</p> |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

授業学級となった豊丘小学校 3 年生の子どもたちは、体を動かすことが大好きで、体育の授業では積極的にいろいろな運動に取り組む子どもたちが多い。また、「フラッグフットボール」の単元では、「空いている所をねらって動いたらパスが通った」などといった運動のおもしろさに気づいた意見を発表したり、友だちの頑張りを認め合ったりする姿もみられた。しかし、勝敗を素直に受け入れられなかったり、判定で譲り合えなかったりしたことが原因で、友だちを責めてしまった場面も何度かみられた。

そこで、本授業では以下の①～⑤の点から、ベースボール型のスポーツである「キックベース」を教材として選び、(1)～(3)を単元の目標として授業づくりを行った。

- ① アウトとセーフの見極めが容易で、子どもたちによるセルフジャッジができる。
- ② ゲームの進め方が分かりやすいので、発達段階に合っている。
- ③ 打者一巡の交代制にすることで、自分の蹴る回数が保証され、安心して挑戦できる。
- ④ 得点用のコーンをいくつか用意し、それぞれのコーンまでの距離を変えることで、子どもたちが自分の技能にあったコーンを選ぶことができる。また、どの子も得点できる喜びが味わえる。
- ⑤ 5人対5人の少人数のチーム構成にすることで、子どもたちの運動量が確保できる。

<単元の目標>

- (1) ピッチャーが転がしたボールをねらった方向に力一杯蹴ったり、向かってくるボールを上手に受け止めたりして、楽しくゲームができるようする。
- (2) ルールや勝敗を素直に受け入れ、お互いに応援し合い仲良くゲームができるようにする。
- (3) ルールを工夫したり、簡単な作戦を立てたりして、ゲームがより楽しくなるように考えることができるようにする。

(2) この事例から明らかになったこと

○ 「確かな学力」

どの子どもも主体的に取り組むことができていた。その原因としてはルールや場の工夫が子どもの実態に合っていた。子どもの意識を大切に授業の流れで学習しやすくなっていた（高とく点をとりたい、蹴ることに焦点を当てる、など）。誰もが活躍できる場が保証されていた。という点があげられる。

思考力・判断力という点では、教師の言葉かけや子どもたちに考えさせたいことが、本時ではボールを足のどの部分に当てるか、タイミングをどうとるかに焦点化されていてわかりやすかったため、自己の課題が持ちやすくなっていた。

問題解決力については、「ボールを大きく蹴るにはどうしたらよいか」という点で、その方法をお互いに教え合うことや、自分の足の蹴るところにテープを貼ったり、助走のスタートラインを引いたりといった工夫を取り入れるながら学習を進めることで、運動の動きを高めることができていた子どもの姿があった。

○ 全体を通して

子どもたちが、ただ運動しているだけでなく、しっかり学習している姿があった。3年生では、個々のめあてを追究する姿が中心になりやすいが、今回はチームで追究するということが芽生えてきていて、チーム学習ができるようになってきていた。

4 来年度への課題

本時に関わってという点では、ゲームやボール運動等の集団スポーツにおける作戦とは何か、攻守が分かれる種目では、攻めも守りも考えることができるのかが課題となった。

全体としての来年度の方角は、本年度同様に生徒同士の関わり合い（コミュニケーション）を大事にしながら、「つける力」を明確にした授業づくりはどうあったらよいか。そして、その中で技能の向上をめざして思考・判断していく姿をねらっていけるとよい。